

令和7年度第2回埼玉県立近代美術館協議会会議録（抄録）

- 1 開催日 令和8年3月10日（火）
- 2 時間 午後2時00分～午後3時30分
- 3 場所 埼玉県立近代美術館3階会議室
- 4 出席委員 山田 一文、山田 明子、綱河 信一、青木 恵美子、大井 教寛
菖蒲澤 侑、田箆 美保、谷口 周子、吉野 律
- 5 欠席委員 古川 慶子、寺久保 文宣、横山 孝博
- 6 事務局出席者 特任館長 関 直子
副館長 岡 裕子
副館長 平野 到
総務・管理担当部長 藤川 奈美子
常設展・収蔵品担当主任学芸員 大浦 周
教育・広報担当主任学芸員 吉岡 知子
企画展担当学芸員 嶋原 悠
総務担当課長 高辻 丈二
総務担当主任 岩瀬 佳奈子
- 7 教育局出席者 文化財・博物館課 主幹 鈴木 寿明
- 8 傍聴者（オンライン） 1名
- 9 進行の概要
 - （1）開会
 - （2）特任館長挨拶
 - （3）協議会委員および美術館職員紹介
 - （4）会議録署名委員指名
会長から署名委員として青木委員、大井委員が指名された。
 - （5）会議の公開・非公開について
公開の決議がなされた。
 - （6）傍聴者について
事務局からオンライン傍聴希望者が1名いることを報告した。

10 議事の内容と質疑応答

(1) 報告事項・意見

ア 令和7年度事業実施状況について

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数について報告を行った。

【主な意見・質疑応答等】

委員 社会教育施設を運営していく上で大切なことは、ヒト・モノ・カネ・コト・情報の5つの要素だと学んだ。埼玉県立近代美術館はどの要素も努力していることを感じた。

事務局 まさに同じことを感じている。コトである事業を行うためには、ヒト・モノ・カネ・情報の歯車が上手く回らないといけないと考えている。

委員 公募プログラム「みつめて、かんじて、たべてみて！-作品のみかた・味わいかた」は、非常に面白い取組であるが、応募点数が減少したと報告があった。事業報告・レポートのようなものを、参加校だけではなく、参加しなかった学校にも発信しているのか。

事務局 現在、開催中の企画展「コレクションの舞台裏」の1セクションに教育普及活動プログラムに関する展示があり、そちらでもこのプログラムを紹介している。

委員 参加できなかった学校にもレポートのような形で広報できると良いのではないかと思う。そうすると来年の応募も増えるのではないか。

事務局 学校単位ではなく個人で参加してもらおうプログラムである。各学校へ公募展の広報をお願いしているが、夏休みの課題などとしては扱われず、応募に結びつかなかった部分もある。

応募いただいた作品は試食会の様子なども含めて、1階のロビーでパネル展示を行い、多くの来館者の方に御覧いただいた。そのような取組も含めて広くPRしていくことが大事だと考えている。

委員 「MOMASコレクション」の観覧者数が増えているということは、コレクションの素晴らしさを物語っていると思う。

資料には、作品の貸出件数はないが、貸し出しも美術館のPR活動として

捉えられるので、評価の一つとして示された方が良いのではないか。

事務局 次回からは、作品貸出件数についても報告させていただく。

委員 ミュージアム・キャラバン「よみがえる！古紙ダンボール-そして地球に還る」は、とても面白い取組である。広報は一定の地域の学校を対象にするなどして行ったのか。

事務局 チラシを作成し、各市町村教育委員会を通じて県内の小中学校、特別支援学校へ配布した。

委員 今年度の企画展で「野島康三」を扱ったが、写真をテーマにした企画展はどの程度の頻度で行っているのか。

事務局 特には定めていない。重要なものであれば、積極的に取り上げたいと考えている。

イ 令和8年度事業計画（案）

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用について説明を行った。

【主な意見・質疑応答等】

委員 常設展、企画展ともに色々なジャンルのモノ・コトを紹介するラインナップになっていて非常に楽しみである。

委員 小村雪岱展は個人的に好きな作家でもあり楽しみである。また、磯崎新の版画だけを紹介する展示はなかなかないのではないかと。とても充実したラインナップだと思う。

委員 昨年度に引き続き、様々な方が参加できるワークショップが非常に多いと感じる。

委員 教育普及事業を細やかに丁寧に数多く行っている印象である。子供たちにとって、このような体験が将来美術館に来るハードルを下げることに繋がる。10年後、20年後に美術館に帰ってきてくるのではないかと。

事務局 おかげさまで子供向けのプログラムは充実してきている。一方で、美術館

と距離のある大人に向けてのアプローチ、プログラムについて御意見等あれば伺いたい。

委員 自館でもそこは課題である。一昔前は、色々なジャンルのイベントに参加してくれる常連客も一定数いたが、最近では、自分の興味のないジャンルには関心を示さず、イベント等にも参加していただけない状況になってきている。異なるジャンルへの関心の持たせ方、例えば美術の入り口だが歴史分野に繋がっているなど、区分けしないテーマ設定を行うなど工夫が必要だと感じている。

事務局 インターネットの影響もあり、関心が細分化され深くなってきているが、検索では示されないものが視界に入らない状況になっている。関心を違うジャンルに繋げていく手がかりを考えていくことが大事かもしれない。

委員 自館では、90年代のブリティッシュ・アートの展覧会を行っているが、40代、50代で「美術」というと身構えてしまう方でも、イギリスのパンクロックや当時のカルチャーを紹介するものだと興味をもってくれる。漫画、音楽、サブカルなど「美術」とは違う入り口を用意してみるとシニア層も取り込めるかもしれない。

委員 自館では、市内の公民館の高齢者学級などで学芸員が出張講座をする機会があったりする。講座の内容と美術館で展示している内容をリンクさせるなどして、来館したことのない方を取り込むきっかけを作っている

ウ 博物館評価について

事務局から会議資料を使用して、令和8年度博物館施設 目標設定・評価シート（案）について報告を行った。

【主な意見・質疑応答等】 なし

エ その他
なし

(以上)